

和光の緑と湧き水だより 会報 Verda 157号

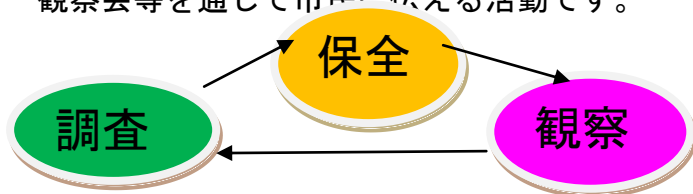
NPO 法人 和光・緑と湧き水の会 会報発行 2015年 11月号 代表理事 高橋絹世 (462-9912)
 身近な自然を知って守り伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>

27年	全体会	新倉ふれあいの森	白子・大坂ふれあいの森(地域の会と協力)	樹林公園
11月	15日 和光市民祭り 28日 和光の親子湧き水散歩	21日 定期保全	14日 モニ 1000 白子 18日 大坂保全	11月7日 昆虫さがし・森あそび
12月	研修会行先きと日程話し合い「富岡製糸と周辺環境を訪ねる」、他予定	19日 保全	12日 白子湧水群 16日 大坂保全	

1. 第2回・白子湧水群の保全ボランティア体験会 報告

各地で秋の様々な催しが開かれる中、当会では10月25日上記の体験会を開催しました。この事業の目的は、今年白子地区の緑地湧水地の保全が進みつつある中で、埼玉県緑の埼玉づくり県民提案事業に取り入れられ、和光市環境課、都市整備課からも協力が得られ、社協ボランティアセンターの後押しもあり、2回目を開催したものです。講師として植物分類学の専門の増山氏、他に造園関係者も来ていただき、初心者から専門家まで幅広い集まりとなりました。初めて湧水を観察した参加者から、白子の湧き水の現状に「もったいないですね」という感想が聞かれました。中学生からは今後も参加の希望があり、今後役に立つ重要な会となりました。増山氏の「和光市湧水環境調査報告書」を解析したお話では、参加した会員にとっても役立ち、報告書の重要さが実感できました。造園関係者からは、斜面林や石垣湧水道の保全にアドバイスを伺いました。この事業は市民、会員ともに役立っているようです。

活動の主旨 湧き水の会が目指しているボランティア活動は、身近な自然を観察（調査）し、その観察を保全につなげ、保全しながら観察会等を通して市民に伝える活動です。



第2回体験会の紹介

白子湧水群の特徴を伝える

- 湧水の仕組みを理解する：地層観察：武蔵野台地末端部の特徴を知り保全する。
 関東ローム層——武蔵野歴層——粘土層があり、降った雨が礫を通り粘土層で止まり、斜面から湧き出ている。
- 生き物への理解
 湧き水特有の生き物が生活している。水路と落ち葉が生き物の住処。落ち葉を残す。石が大切。流れを変えない。(葉や石の下に棲む)
- 斜面林の植物が崖と湧水を守る
- 歴史に注目・宿場を支える湧き水
 石垣湧水道など生活水として利用した歴史が残る。



当日のプログラム (13:30~16:30)

集合—主旨・白子湧水の特徴の紹介—スケジュール伝達—富澤湧水の観察保全—大坂ふれあいの森の観察保全—コミセン集合—増山氏お話—感想や会の紹介

参加者には参加証を渡しました。

白子湧水群

1. 富沢湧水のボランティア体験では、湧水の地層の仕組みが見える崖線で観察、武蔵野台地末端部の湧き水の特徴が目の前で見て、粘土にも触れられました。山がないのに、台地の地下にしみ込んだ水が斜面で地上に現れた所です。他ではコンクリートで塞がれてしまうところですが、富沢湧水は歴史的にも湧き出した湧水を利用し、活用してきたところです。斜面の石段をはじめて上り、歴史的なお社発見、ササ刈りも体験。



2. 大坂ふれあいの森の体験では、奥深い緑の森に入って、ここで見られる関東ローム層観察、水が湧き出し斜面を削った地形を体感しました。湿地を代表するムクノキやイヌシデの森が見られます。畑跡地の草原は丈が高い草やつるに覆われています。植物専門の増山さんからはクイズ形式で現地の植物に触れ合う観察会となりました。



3. 講演「植物調査員の目から見た和光市湧水環境調査」

エヌエス環境（株）の東京支所で植物主任である増山晶子さんから大変有意義なお話を聞くことが出来ました。昨年度作成した「和光市湧水環境調査」報告書を専門家が分析した結果を、中学生や参加者にも解りやすく、楽しく聞きました。驚くことに、調査した40か所の当会の報告のなかで、高木層の優先樹木を環境省の分類に照らし合わせると、大変よく一致しているとのこと。ケヤキ・シラカシ群集、コナラ・クヌギ群集などがはっきりと分類できます。ムクノキ・エノキ群集が特に特徴があり、これから湧水や湿地性群集があることがわかります。富沢湧水も大坂ふれあいの森にもムクノキやエノキに加え、イヌシデがあり、湿性地を表しています。重点地区の植物調査は、生物多様性を知るための調査方法です。毎月の調査データから、常緑の植物の中に落葉の植物も現れているのがわかります。湧水が年間を通して一定の17度であることの影響かもしれません。

